

平成28年度 鹿児島県小・中・高・特別支援学校PTA広報紙コンクール審査評

1 総合所見

- (1) 各単位PTAで、年間を通し充実した活動が展開されていることがうかがえた。
PTA活動のテーマを設定し、記事内容、紙面構成、見出しなどを工夫し、読んでもらえる魅力ある広報紙づくりへの努力が感じられた。
- (2) 小学校では、記事ごとにテーマを持たせて紙面を構成し、読者を引き込み読ませる広報紙が増えてきている。
- (3) 中学校では、会員の欲求・要望に応えようとする特集を組むなど紙面づくりへの意欲がうかがえた。また、学期ごとのPTA活動の様子がよく分かるように工夫している紙面もみられた。
- (4) 高等学校では、テーマを設定したりアンケート調査したりして、読み手を引き付ける紙面づくりの工夫がみられた。
- (5) 特別支援学校では、子どもの成長を中心にしながら、PTA活動との関わりを視点にしてレイアウトを考えるなど、各校での工夫がみられた。

2 今後の課題（留意してほしいこと）

- (1) 学校行事を取り上げることが多いが、行事の写真紹介のみで終わるのでなく、PTA活動の視点やかかわりから記事にしてほしい。

- 例 ○ 「運動会を支えるPTA活動」として、会員の活躍の記事にする。
○ 「修学旅行の感想」を子どもに書かせるのではなく、親の思い、旅行後の親子の会話などの文章で紙面を構成する。

- (2) 広報紙をいっそう充実させるために

- 何を伝えたいか明確にし、例年の記事内容を「変える勇気」を持ってほしい。
- 学級PTAなどで、自校発行の広報紙を使い研修する機会を設ける。
(特集記事などを基に話し合うことで、会員の資質向上と広報紙への関心が高められる。)
- 文字の大きさに配慮していただきたい。読者が読みやすくなると同時に、文字による内容が分かりやすくなり紙面が引き締まってきます。